

## 幼保小の連携に関する研究 (1)

子どもの居場所作りのために小学校図書室に  
保育の環境構成を取り入れた取り組み

西 川 ひろ子

### A Study of the Desirable Relation between Early Childhood and Primary Education No.1: The Environmental Constitution for Childcare Initiative to Create Space for Children in Elementary School Reading Rooms

Hiroko NISHIKAWA

#### 1. 研究の目的

本研究は、子どもの居場所を小学校において設けるために、小学校の学校図書室に保育の環境構成を取り入れ、学校図書室を再生する実践である。

最近、小1プロブレムや学級崩壊などが問題視されている。その対応の一つとして、従来から課題とされてきた幼保小の連携に期待が集中している。従来の幼保小の連携は、小学校低学年の生活科の時間を利用して、幼児と児童がいっしょに校庭で遊んだり、お店屋さんごっこや畑作りで交流したりするものから、保育者と小学校教師の交流、施設の共有、教員間の人事の交換、共同での研修及び研究会開催などが主であった。そこには、小学校が一斉授業中心であるのに対して、保育所や幼稚園は自由な遊びが中心であることから、両者の違いを強調するあまり断絶が生じた事への反省が前提にあるという指摘もある。

これらとは違った保・幼・小連携の試みは無いのであろうか。幼稚園・保育園は、環境を通しての教育が基本である。環境構成をする知識・技術は、保育者の資質・能力の基本である。親元から離れて、不安を抱きながら園の門をくぐる幼児に、安心感を持ち、興味と好奇心が育まれ、自分の安心の基地を幼児ひとりひとりが創れるための環境構成である。特に保育室を飾る壁面構成から、かわいらしい雰囲気と親しみ、そして季節を幼児達は感じる。また、一人一人が活動に満足できるために、保育室にはコーナー保育が導入されている。例えば、ままごとコーナーには畳が敷かれ、安心して座り込んでままごと集中できる空間がつけられている。また、金魚や虫などの飼育物が見れるコーナーがあったり、造形に集中できるテーブルがあったりと一人一人の動線を考えたコーナーが小さな保育室の中に区分されている。

6歳児になったとしても、小学校に入園する児童も同じような気持ちではないだろうか。新しい自分の安心の基地が教室に出来た児童は問題ないだろう。しかし、不登校児や保健室登校が急増しているように、安心の居場所を探している子ども達の姿が多く見られる。不登校を起こしたり、保健室登校をしてしまう前に、教室以外で子ども達の居場所となりうる場所はどこか。その一つの可能性が図書室にあると考えた。

だが、現在の図書室の現状は、ただ広々とした部屋に古くなった本が並べられていたり、教員の会議室に使われていたり、本来の子ども達が読書の喜びや楽しさを味わう場所ではなくなっている学校図書室は多い。

そこで、小学校の学校図書室を子どもの居場所として環境構成し直すために、保育の環境構成を取り入れる実践を行い、子ども達の居場所になりうるのかを検証することを本研究の目的とした。

## 2. 研究の方法

本研究の調査対象及び調査期間を以下の通りである。

研究調査対象

東広島市立T小学校図書室（児童数約700名）

調査期間

東広島市立T小学校の調査実施期間は、平成18年12月～現在進行中。

本研究の方法は、まず図書室を観察し、問題点を分析した後に、保育の環境構成を導入する。次に子ども達へ図書室再生に対するアンケート調査を行い、考察し、保育の環境を取り込むことの有効性を検討した。このことの詳細を以下に記載した。

### (1) 図書室の問題点の分析

まず、問題点の分析のために平成18年11月に図書室を観察し、子ども達の動線を分析した。その結果、問題点は、以下の点であった。

- ・ 図書を借りるカウンターが狭く、借りにくい
- ・ 新着本がカウンターの後であって借りにくい
- ・ 北窓に高い書棚があり、図書室全体が暗く、圧迫感がある
- ・ 壁に国語の教科書に出てくる話の一場面の絵（モチモチの木など）は掲示されているが、高い場所に掲示してあり、圧迫感があり、絵も親しみが持てるかわいらしい絵ではない。
- ・ 本を読むためのテーブルはあるが、造花が飾られ季節感を感じられない。
- ・ 子ども達に人気がある本がカウンターの近くに配置されていて、貸し出しカウンターの周囲が混み合っているが、図書室の後はほとんど児童が立ち寄らない。
- ・ 絵本コーナーはあるが、図書室の真ん中にあり、落ち着かない。

### (2) コーナー保育を用いた小学校図書室の図書配置変更および壁面構成の導入 図書室再生の具体的項目は以下の二点である。

#### ① 子どもの動線を観察した後のコーナー保育の方法を導入、コーナー分けの配置変更。

前述した問題点を解決するための具体的な変更点は以下の通りである。

- ・ カウンターコーナーをテーブルを二つつなげ大きくした。
- ・ 北窓の本棚を窓までの高さの本棚に変更した。
- ・ 図書室を新着本が並べられているエントランス、カウンター、本を読むテーブルコーナー、児童に人気の児童書のコーナー、低学年に人気の絵本コーナー、あまり利用されない辞典

類のコーナー、あまり貸し出しが少ない産業関連図書コーナー、に大きく区分してコーナーを設定した。

- ・ 混み合う児童書のコーナーと絵本コーナーは図書室後方に配置した。
- ・ 児童があまり利用しない辞典コーナーと産業関連図書コーナーは、テーブルコーナーの左右に配置し、本をゆっくり読めるように配置した。
- ・ ままごとコーナーのような絵本コーナーの設置。小学校入学して間もない低学年が安心して自分の居場所となるように絵本コーナーには保育室のままごとコーナーでよく用いられる畳を導入した。しかも、部屋の隅に配置し、少し隠れる基地のような場所に配置した。また、絵本は読書をする場所に行かなくとも、畳の上や小さな腰掛けベンチに座って、すぐに絵本を手に取り読めるように絵本コーナーを構成した。また、ベンチの前には、絵本の表紙が見えるような本棚を置いた。

## ② 保育室の環境のような壁面構成の導入

幼稚園や保育園が活用している壁面構成を貼り、図書室の雰囲気をも明るく柔らかな印象を醸し出せ、季節感が感じられるようにする。

特に、かわいらしい動物たちで構成された壁面構成を毎月ごと掲示した。季節の壁面は、絵本コーナーもしくは、貸し出しカウンターの側に設置し、子どもの目の高さに配慮した位置に貼り、図書室に入室したらすぐに季節をすぐに感じられるように配慮した。

## (3) 図書室再生による子ども達への影響に関するアンケート調査

図書室再生10か月後に以下のようなアンケート調査を実施した。

調査期間：平成19年10月

調査対象：東広島市立T小学校700名

質問項目：(がっこうととしよしつについてアンケートをおねがいます。)

1. なん年生ですか。 ( ) 年生
2. 今年、としよしつの本のばしょと、かべのかざりがかわりました。きょ年よりすきですか？  
あなたの気持ちにあてはまるものに、○をつけてください。  
( ことしの方がすき 今年もきょ年もおなじ きょ年の方がすき )
3. としよしつが、あたらしくなって、来たいと思うようになりましたか？  
あなたの気持ちにあてはまるものに、○をつけてください。  
( 来たいと思う かわらない あまり来たくない )
4. どんなとき、としよしつに来たいですか？あてはまるものぜんぶに○をつけてください。  
( がっこうに来たとき じゅぎょうのとき やすみじかん がっこうがおわって  
あそぶともだちがいないとき ゆっくりしたいとき べんきょうしたいとき  
ひとりになりたいとき おなかをいいたいとき なにもすることがないとき  
ともだちとケンカをしたとき べんきょうがむずかしいとき )
5. としよしつのごどのばしょがスキですか。あてはまるものぜんぶに○をつけてください。  
( ほんだな テーブル いりぐち えほんのコーナー カウンター  
かべのかざり えほんコーナーのちかくのベンチ )
6. えほんコーナーのばしょやかざりがかわりました。えほんコーナーはすきですか？  
あなたの気持ちにあてはまるものに、○をつけてください。  
( ことしの方がすき 今年もきょ年もおなじ きょ年の方がすき )

7. ことしのえほんコーナーがすきなりゆうをおしえてください。  
 あなたの気もちにあてはまるものぜんぶに、○をつけてください。
- ( たたみがあるから                      ちょっとかくれていて、きちみたいたから  
 テーブルがあるから                      テーブルの上のかざりがかわいいから  
 かわいいかざりがかべにはってあるから                      )

### 3. 研究の結果

#### (1) コーナー保育を用いた図書配置変更および壁面構成の導入の結果

本研究を実施する前のそれぞれの小学校の図書室の配置は以下の通りであった。

東広島市立T小学校図書室

研究調査以前

T小学校は、休み時間になっても子ども達の姿は少なく、本を貸し出し数は少なかった。図書室の窓は、北側に配置され、一日中暗い印象の部屋で、しかも所蔵図書数が多いため、窓の高さの半分を本棚で隠していた。子どもたちが本を借りるカウンターは物置のために狭く、多くの本棚と机、そして図書室の中央に設置された絵本コーナーは、どこからも良く見えるが、落ちつかなく、煩雑している印象があった。図書館の入口も昔の掲示物がそのままとなり、入りにくい印象であった。子ども達が長く時間を過ごすには暗く、狭かった。



以前の図書室入り口



図書室再生以前の貸し出しカウンターとエントランス

コーナー保育を用いた小学校図書室の図書配置変更および壁面構成の導入後は以下の通りである。



図書室再生全体像



図書室再生後のエントランス



図書室再生後のエントランスの  
新着本コーナー



図書室再生後の絵本コーナー

## (2) 図書室再生による子ども達への影響に関するアンケート調査結果

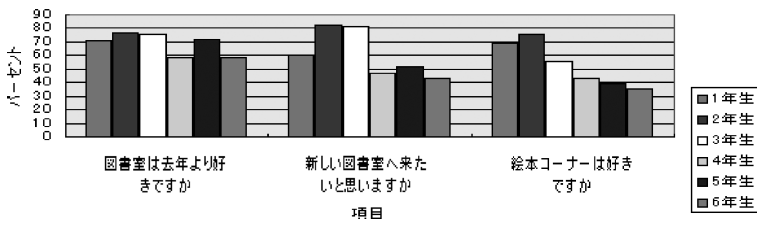
アンケートの結果は以下の通りである。

ただし、一年生へは「図書館は去年より好きですか」ではなく、「図書館は好きですか」という質問項目である。

	図書室は去年より好きですか	新しい図書室へ来たいと思いますか	絵本コーナーは好きですか
1年生	71.1	60.3	68.6
2年生	76.8	82	75.9
3年生	75.9	81.5	55.6
4年生	58.4	47.2	43.2
5年生	72	51.6	39.7
6年生	58.8	43.5	35.3

(%)

図書室へのアンケート結果

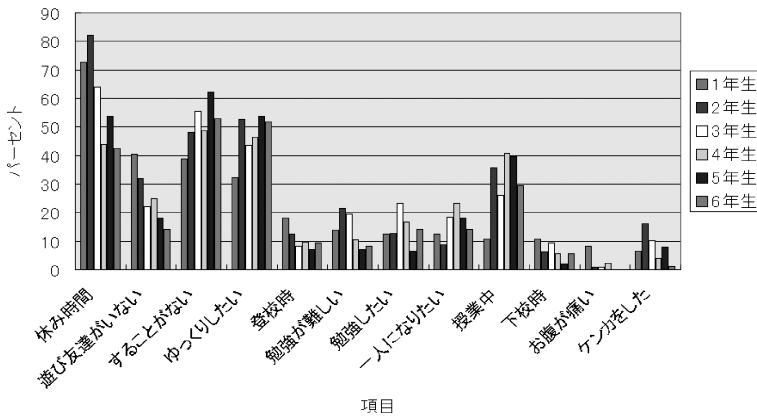


問3 どんな時に図書室に来たいか

(%)

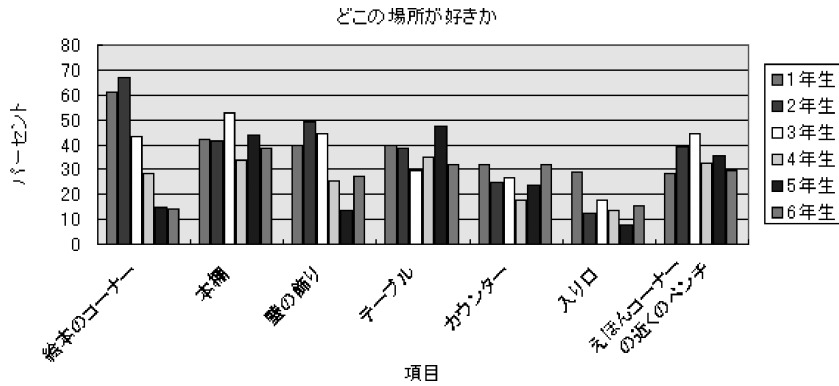
	休み時間	遊び友達がない	することがない	ゆっくりしたい	登校時	勉強が難しい	勉強したい	一人になりたい	授業中	下校時	お腹が痛い	ケンカをした
1年生	72.7	40.5	38.8	32.2	18.2	14	12.4	12.4	10.7	10.7	8.3	6.6
2年生	82.1	32.1	48.2	52.7	12.5	21.4	12.7	8.9	35.7	6.3	0.9	16.1
3年生	63.9	22.2	55.5	43.5	8.3	19.4	23.1	18.5	25.9	9.3	0.9	10.2
4年生	44	24.8	48.8	46.4	9.6	10.4	16.8	23.2	40.8	5.6	2.4	4
5年生	53.7	18.2	62.3	53.7	7	7	6.4	18.2	39.7	2.1	0	8
6年生	42.4	14.1	52.9	51.8	9.4	8.2	14.1	14.1	29.4	5.8	0	1.2

どんな時図書室に来たいか



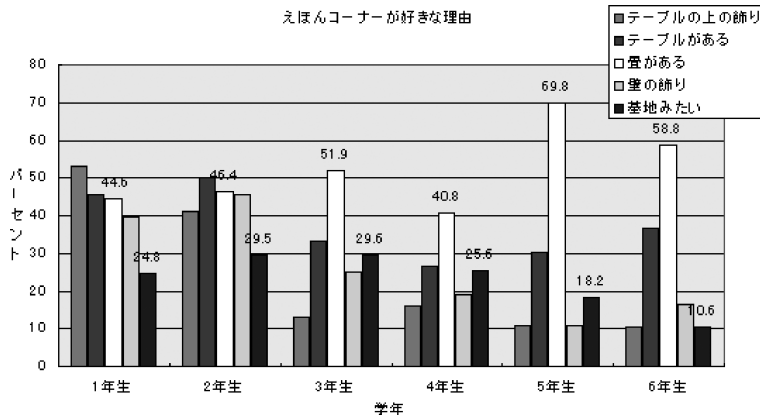
問4 図書室のどこの場所が好きか (%)

	絵本のコーナー	本棚	壁の飾り	テーブル	カウンター	入り口	えほんコーナーの近くのベンチ
1年生	61.2	42.1	39.7	39.7	32.2	28.9	28.7
2年生	67	41.2	49.1	38.4	25	12.5	39.3
3年生	43.5	52.8	44.4	29.6	26.9	17.6	44.4
4年生	28.2	33.6	25.6	35.2	17.6	13.6	32.8
5年生	15	44	13.9	47.3	23.6	7.5	35.4
6年生	14.1	38.8	27.1	31.8	31.8	15.3	29.4



問7 えほんコーナーが好きな理由 (%)

	テーブルの上の飾り	テーブルがある	畳がある	壁の飾り	基地みたい
1年生	52.9	45.5	44.6	39.7	24.8
2年生	41.1	50	46.4	45.5	29.5
3年生	13	33.3	51.9	25	29.6
4年生	16	26.4	40.8	19.2	25.6
5年生	10.7	30.1	69.8	10.7	18.2
6年生	10.6	36.5	58.8	16.5	10.6



#### 4. 研究の考察

アンケート結果は、「今年、図書室の場所と壁の飾りが変わりました。去年より好きですか。」という質問では、2年生、3年生とも約8割の児童が「今年が好き」という結果が出た。次に「図書館が新しくなって、来たいと思うようになりましたか。」という質問でも、2年生、3年生とも「来たいと思う」という回答が約8割であった。本研究の実施により、以前より図書館が子ども達の身近に、また、楽しい場所になったのではないだろうか。次に、「絵本コーナーの場所や飾りが変わりました。絵本コーナーは好きですか。」という質問では、「今年の方が好き」という回答が、2年生、3年生とも多かった。絵本コーナーを好んだのは、3年生より2年生のほうが多く、約8割の児童が好んでいるという結果であった。「どんな時図書室に来たいか」という質問では、どの学年も「休み時間」に利用することの回答が多かった。ここで気になったのが一年生のデータである。一年生では、「おなか痛いとき」という項目が他の学年に比べて多かった。図書室を保健室代わりとして利用していると感じた。また、2年生では、「けんかをしたとき」との回答が多くあった。図書室が癒しの場になっていると考えられた。また、全体的に「ゆっくりしたいとき」との回答も多かった。これらの結果により、子ども達にとって図書室がくつろぎの場、また、居場所になっているということが推測された。

また、「どこの場所が好きですか」という質問には、学年によって違いがあった。「絵本のコーナー」は低学年に多く、1年生、2年生共、6割から7割の児童が好んでいるという結果であった。低学年はまだまだ幼児性が残り、保育室のような環境を求めているのではないだろうか。また、意外にもベンチやテーブルを好む児童が多く、机に座って読むことだけではない居場所になっているようである。特にベンチの人気は、3年生に高かった。1・2年生と3年生との間には、発達の違いがあり、3年生では、幼児性は落ち着き、ホッとする空間を好んでいるようだ。コーナー保育の原理として、「仕切られた空間」「たたみ」「ベンチ」などを活用する。今回この原理を使用し、アンケートからこの効果を実感できたので、これからも取り入れていこうと思う。「どこの場所が好きか」という質問で、もっとも回答が多かった「絵本コーナー」を好きな理由は、低学年では、「テーブルやテーブルの飾り」また、「壁の飾り」を理由にあげていた。全体的に一番人気だったのが、「畳」だった。家庭的で、ホッとする空間、くつろげる居場所は、低学年のみならず、中・高学年にとっても好まれることがわかった。また、「基地みたい」との理由で好まれており、自分だけの限られた空間を好み、大切にしているということもわかった。

このような考察結果より、保育の環境構成を導入することで図書室が子どもの居場所になる可能性は高いと考えられる。また、絵本コーナーには、コーナー保育のように畳やテーブルがあると子どもは落ち着くようである。そして、図書室に毎月掲示していた季節感のある壁面構成はとても好評で、子ども達は、楽しみにしてくれていた。この結果より、幼稚園・保育所からすみやかな小学校への連携にとって、今回の実践は有効であったようだ。また、コーナー保育の原理といった保育の環境構成を取り入れた図書室の再構成が子どもの居場所作りとして有効であることがわかった。今後も様々なケースでの研究を継続する予定である。